

52 楠川城跡(クスガワジョウアト)



指定 平成7年11月21日 町指定 記念物一史跡

所在地 鹿児島県屋久島町楠川

楠川城は、種子島第十二代領主種子島忠時が、大永四年(1524)に築城した、楠川港を眼下にする地の利を得た山城です。城跡は、三つの曲輪からなり、東・北西側が断崖で、南側は丘陵部につながり空堀で切断されており、「日本城郭大系」に記載される島内唯一の城跡です。

十五世紀の室町幕府内で、勘合貿易をめぐる対立が起こり、管領細川氏に組する島津氏の勢力下にあった種子島氏が南島において重要な役割を担いました。種子島氏は、南島航路上の要所である屋久島に、交通拠点を築き、また倭寇の監視を行うため、島の東西に位置する楠川・吉田・永田に山城を構築し、後年楠川城を中心に屋久島の統治を行い、食料等諸物資の搬入や、鉄砲用砂鉄や木炭の移出、屋久杉の運用管理などを行いました。

天文十二年(1543)種子島家の内乱に際し、大隅半島の^{ねじめ}禰寝氏と戦って敗れ、屋久島を割譲しますが、翌年屋久島を守る^{ねじめ}禰寝勢を破り、再び屋久島は種子島領に復帰しました。

この戦いを俗に^{ねじめ}禰寝戦争といいますが、日本で初めて火縄銃が実戦に使用されたという説もあり、楠川城跡は、歴史的に貴重な文化財といえます。

